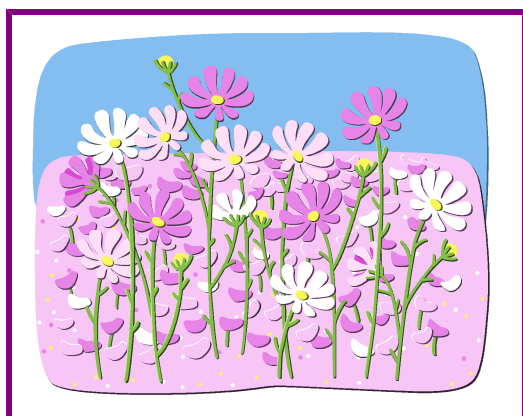


# めぐみイエス・キリスト教会

2020年9月6日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第522号」



## 2020年標題聖句

第Iテサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年9月6日 第一主日礼拝 午前10時  
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん  
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.59第Ⅰヨハネの手紙第4章抜粋 p. 927

【賛美Ⅱ】 新聖歌515「わが罪のために」 p. 819

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「神の都へ」

【聖書朗読】 使徒の働き4章23節～31節(2017新約p. 239下段)

【礼拝説教】 《祈り終わると》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き4章23節～31節

4:23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。

4:24 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。

4:25 あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。

4:26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と、主に油注がれた者に対して。』

4:27 事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもベイエスに逆らってこの都に集まり、

4:28 あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。

4:29 主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみ言葉を大胆に語らせて下さい。

4:30 また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもベイエスの名によって、癒やしとしるしと不思議を行わせて下さい。」

4:31 彼らが祈り終わると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神の言葉を大胆に語り出した。

### ●ポイント1. 使徒たちの祈りにおいて引用された箇所とは？

#### ※詩篇2篇1節～2節「人知に勝る神の計画の詩篇」 (旧約p.934下段)

2:1 なぜ国々は騒ぎ立ちもろもろの国民は空しいことを企むのか。

2:2 なぜ地の王たちは立ち構え君主たちは相ともに集まるのか。【主】と主に油注がれた者に対して。

### ●ポイント2. 聖霊降臨において

#### ※使徒の働き2章1節～4節「ペンテコステの出来事」 (新約p.233下段)

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。

### ●ポイント3. 使徒たちは、なぜ願い祈ったのか？

#### ※マタイの福音書10章28節～32節「主イエスの約束」 (新約p.19上段)

#### ※第Ⅱテモテへの手紙1章7節「使徒パウロの勧めから」(新約p.425下段)

1:7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えて下さいました。

## ◎先週のメッセージの概要【誰に従うべきか】

《ペテロは、聖霊に満たされて力強いメッセージを語りました。ほぼ全員が集まった最高法院は、何の反論も出来ませんでした。それは、いやされた男が、二人と一緒に立っていたからです。そこで、彼らはペテロとヨハネを会議場の外に出しました。そして話し合いが持たれたのです。

「あの者たちをどうしようか。あの者たちによって『著しいしるし』が行われたことは、エルサレムのすべての住民に知れ渡っていて、われわれはそれを否定しようもない。」この発言は、議長であった大祭司カヤパです。

著しいしるしとは、美しの門にいた生まれつき足の不自由な人が、ペテロとヨハネによって、ナザレのイエスの名のもとに奇跡的にいやされたことです。彼はその時、40歳ほどでした。しかも、その事は、もはやエルサレム中の人々に知れ渡っていました。カヤパは決議案を出します。

「今後だれにもこの名によって語ってはならない、と彼らを脅しておこう。」

そこで、彼らは二人を再度、法廷に呼び戻し、イエスの名によって語ることも教えることも禁じたのです。この言葉の裏には、イエスこそがメシヤであることを、もはや否定は出来ないと言う事実が隠されています。

それに対しペテロは、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断して下さい。私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」と答えます。

まず私たちが従うべきお方は、間違いなく第一に主イエス様とみ言葉(聖書)です。主イエス様は、ご自身に従うことを望んでおられます。

その事を踏まえて、上に立つ者に従うことをパウロはあえて薦めているのです。「人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているから。」と。

しかし、上に立つ者の命令が、聖書や主イエスの御心に反する場合には、当然、聖書と主イエスの御思いが優先されることとなります。しかしそうでない場合には、上に立つ者の命令が優先されることとなります。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、9月13日(日)教会にて行ないます。第二礼拝はありません。また、聖書の学びと祈り会は、水曜日に各家庭にて行ないます。